

唐厚朴ニ僞ル然レドモ其味悪ク且ツ堅ニ白キ筋アリ意ヲ注テ辨別スベシコレ天竺桂皮ニシテ厚朴ノ類ニアラズ今藥舖ニ薩州甌島ノ厚朴ト稱スルモノアリ舶來ノ厚朴ニ代用スベシ又萬病回春ニ白子朴ノ名アリ古來ヨリ詳ナラズコレ厚朴ナルベシ白子ノ二字ヲ一字トスレバ厚ノ字ニ近シ傳寫ノ誤ナリ

〔牛馬問〕和のホウノキといふて秤の覆ひ刀の鞘に用ゆる木は漢土に於て見證なし此木と梅干とは大毒なり此木の上に置たる梅干を食ふべからず必ず死すといふ本朝の俗醫此ホウノキを以て唐の厚朴と心え和の厚朴と號し藥用する事大なる僻事也厚朴は和産なしホウノキは漢土なし故に文字なしホウノキは冬に至りて葉落厚朴は冬不凋たまノ其木の似たるのみ藥用には必ず唐なるものを撰て服すべし總じて和産なきもの近年唐種にして和産するもの多し又可知

〔剪花翁傳前編二三月開花〕厚朴俗にほうの木といふ花八重一重色白形木蓮花に似たり開花三月中旬旬葉先出で後花咲なり是山生のもの故に育方隨意にすべし丹波路に多く産す

〔採藥錄木五〕厚朴　ホウノキ

春秋皮ヲ取り日乾ズベシ舶來ハ解皮ニ似タリ本邦ニモ一種深山ニ生ズル者葉稍小ニシテ皮解ノ如シ

〔榮花物語三十三〕林またこのほどにあさまじうあはれなりつる事は侍従大納言藤原行成の同じ日よりあやしうれいならぬかせにやとて朴をまわりゆゆてなどして心み給ひけれどいとくるしうのみおぼされければいかなるにかと覺し殿のうちもよろづに御いのりもさはぎけるに四年○萬壽四月十二月のよさりとの御まへ○藤原のおはらせ給ひしおりにこそうせ給にけれ〔古今要覽稿草木〕をがたまの木